



第32回オリンピック競技大会（2020／東京） 令和元年度モンゴル国ウエイトリフティング ナショナルチーム事前キャンプ

来年開催される第32回オリンピック競技大会（2020／東京）の出場を目指す、モンゴル国ウエイトリフティングナショナルチームが、日本の気候や生活環境に慣れるため、本市で事前キャンプを行いました。

本年度は、8月18日（日）から9月2日（月）までの16日間、男女8人の選手とスタッフが本市に滞在し、霞ヶ浦ふれあいランド旧レストランみずまる特設施設でトレーニングに励みました。

選手団は、強化トレーニングの合間に、当該施設を訪れた約1,000人を含む延べ約2,000人の市民との交流やさまざまな日本文化に触れ、充実した時間を過ごしました。

9月下旬にタイのパタヤで開催された世界選手権において、モンゴル国の女子選手が見事、銅メダルを獲得するなど、オリンピック本大会への出場が期待されます。

来年度も本大会開幕直前に、本市において同様のキャンプが行われます。引き続き選手団と市民の交流の場をつくるとともに、当該スポーツ交流を切り口に、モンゴル国との一過性ではない持続的な人的・経済的・文化的な相互交流を図っていきます。（写真提供：茨城写真家協会 会長 長屋 陽さん）

（練習風景）



① 歓迎レセプション

本市へお越しいただいた選手団を行方産の食材を使った料理でもてなし、地元のおはやし（西小ばやし）が華を添えました。当日、駐日モンゴル国特命全権大使も駆けつけました。



②児童・園児見学

期間中、たくさんの児童・園児が施設を訪れました。選手の力強いパフォーマンスに歓声を上げながら、選手との交流を楽しみました。選手に手づくりの折り鶴をプレゼントする子やモンゴル衣装を楽しむ子もいました。



③ウェイトリフティング体験教室

茨城県ウェイトリフティング協会から講師を招き、シルバーリハビリ体操指導士やスポーツ少年団員を対象に体験教室を開催しました。教室では主に体幹や体の動かし方を学びながら、ウェイトリフティング体験をしました。



④老人ホーム訪問

市内の老人ホームを訪問し、日本の介護制度を学びました。家族のことを思い出すなど、さまざまな感情を抱き、涙する選手もいました。



⑤相撲部屋朝稽古見学

つくばみらい市にある立浪部屋を訪問しました。同じモンゴル国出身の力士、豊昇龍(11月場所新十両、朝青龍のおい)の頑張りに、大いに刺激を受けました。



⑥化蘇沼稻荷神社例大祭見学

力強い奉納相撲や厳かな巫女舞を見学しました。選手団は大勢の観客を前にあいさつし、本市のおもてなしに感謝しながら、東京オリンピックでの活躍を誓いました。



⑦日本文化体験(書道、オカリナ演奏、金魚すくい、餅つき・バーベキュー)

たくさんの方々にご協力いただき、日本の文化を体験しました。選手にとってどれも初めてのことで、思い出多き貴重な時間を過ごしました。



⑧フェアウェルパーティー（市民合唱団）

市民合唱団の清らかな歌声で日本滞在最後の夜を楽しみました。一人ずつあいさつした選手たちは、事前キャンプの期間を振り返りながら、本市での思い出を話しました。最後にモンゴル国オリンピック委員会の歌も披露されました。



⑨期間中の昼食にご協力いただいた皆さん

期間中の選手たちの昼食づくりに、地域の女性団体や活動団体の皆さんが協力してくれました。地元食材をふんだんに使用したメニューで、選手団を食の面から支えました。



⑩成田空港にて

本市を離れることを惜しみつつ、元気にモンゴル国に帰っていきました。

■問い合わせ

企画政策課（麻生庁舎）
☎ 0299（72）0811

モンゴル国ウエイトリフティング
ナショナルチームの皆さん、また
来年、元気に会いましょう！

